

会社概要	
社名	川辺株式会社
社名(英語表記)	T.KAWABE & CO., LTD.
創業	1923年2月
設立	1942年11月
資本金	1,720,500,000円
主な事業内容	ハンカチーフ、スカーフ、マフラー、タオル及び布帛製品の製造、販売ならびに輸出入／服飾雑貨の販売ならびに輸出入／化粧品、香水、石鹸、医薬品、医薬部外品の製造及び販売ならびに輸出入／上記に附帯する一切の業務
事業所	本社／東京支店／大阪支店／福岡支店 川辺今治センター グループ レインボーワールド株式会社／株式会社ソルティアー／川辺（上海）商貿有限公司
役員 (2022年6月28日現在)	取締役会長 吉田 久和 代表取締役社長 岡野 将之 代表取締役 越智 康行 経営企画室長 取締役 戸上 太一 営業統括本部長 取締役 坂本 賢一 取締役 有田 二郎 経営管理統括本部長 取締役 安田 耕司 社外取締役 監査役 安田 裕二 常勤監査役 監査役 洞 敬 社外監査役 監査役 神崎 時男 社外監査役
従業員数	157人

株主メモ	
事業年度	毎年4月1日から翌年3月末日まで
剰余金の配当の基準日	期末配当金 毎年3月末日
定時株主總會	毎年6月開催
公告方法	電子公告（https://www.kawabe.co.jp） ただし、電子公告によることができないときは、日本経済新聞に掲載する方法とします。
株主名簿管理人	東京証券代行株式会社 東京都千代田区神田錦町三丁目11番地 NMF竹橋ビル6階
郵便物送付先（連絡先）	〒168-8522 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 東京証券代行株式会社 事務センター ☎0120-49-7009 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店及び全国各支店で行っております。

株主ご優待について	
株主の皆様の日頃のご厚情にお応えするため、下記の要領により、株主ご優待の商品を贈らせていただきます。	
ご優待の商品	自社製品
権利の確定日	3月31日現在の株主
ご所有株式による区分と商品	① 100株以上ご所有の株主 小売値2,000円相当の自社製品 ② 300株以上ご所有の株主 小売値5,000円相当の自社製品 ③ 500株以上ご所有の株主 小売値7,000円相当の自社製品 ④ 1,000株以上ご所有の株主 小売値10,000円相当の自社製品



株式情報（2022年3月31日現在）			
発行可能株式総数	3,000,000株		
発行済株式総数	1,861,000株		
株主数	1,776名		
主要株主名	持株数	持株比率	
一広株式会社	1,004,200株	55.0%	
丸山三千夫	55,000株	3.0%	
伊藤忠商事株式会社	53,180株	2.9%	
川辺康子	42,064株	2.3%	
松本恒吉	20,000株	1.1%	
越智康行	19,800株	1.1%	
大島勇	13,400株	0.7%	
川辺浩子	10,951株	0.6%	
越智勲	10,800株	0.6%	
沢辺潔	10,103株	0.6%	

(注) 持株比率は自己株式(35,365株)を控除して計算しております。

川辺株式会社

〒160-8403 東京都新宿区四谷四丁目16番3号
TEL：03-3352-7123 FAX：03-3352-2070



ごあいさつ

当連結会計年度（2021年4月1日～2022年3月31日）における国内経済は、昨年に引き続き新型コロナウイルス感染症再拡大による影響で厳しい状況が続き、10月以降はワクチン接種の進行に伴い、感染者数の減少や緊急事態宣言の解除等により緩やかな回復基調に転じましたが、年明け以降はオミクロン株感染拡大を受け、再び急速に悪化いたしました。

当社グループの主要販路である百貨店・直営店舗においても、秋冬から年末商戦の期間ではコロナ感染者数減少を背景に入店客数増、外出機運や消費意欲の高まりにより盛り上がりを見せ、市況の回復が一時的にありました。しかしながら当連結会計年度を通じては、まん延防止等重点措置や緊急事態宣言が断続的に発出され、対象地域も徐々に拡大されたことによる店舗の営業時間短縮や売場の営業自粛、消費者の外出自粛による入店客数減少などが大きく影響した結果、小売業界でも同様に厳しい状況となりました。

当社グループにおいても累計売上、利益額ともに昨年度に続き極めて厳しい結果となりました。

このような状況下において、当社グループは、当連結会計年度の重点課題として掲げている新規販路の開拓、EC事業の拡大、収益の改善、マーケティング活動・広報活動強化、SDGsの取り組み、の5つを更に推進し、新型コロナウイルス感染症拡大防止の取り組みを継続し、在宅勤務や時差出勤等の柔軟な勤務体制、WEB会議システムの活用等の対応策を講じ、従業員、取引先、顧客への影響の最小化に努めつつ積極的に営業活動を進めてまいりました。

また事業継続の観点から引き続き、在庫の適正化、経費削減、投資の見直し等の取り組みを積極的に行うとともに物流センターの稼働率低下に伴い、勤務体制の見直しを行い経費抑制に努め取り組んでまいりました。

次期につきましては「新中期経営計画2020」の最終年度であります。新型コロナウイルス感染症拡大等の大幅な外部環境の変化に伴い、

連結財務データ

財務の状況	前期末 2021年3月31日現在	当期末 2022年3月31日現在
流動資産	7,258	7,189
固定資産	5,287	5,110
資産合計	12,546	12,299
流動負債	5,214	5,255
固定負債	943	968
負債合計	6,158	6,223
純資産	6,387	6,076
負債純資産合計	12,546	12,299

経営成績の状況	前期 2020年4月1日～ 2021年3月31日	当期 2021年4月1日～ 2022年3月31日
売上高	11,293	10,786
営業損失(△)	△ 462	△ 214
経常損失(△)	△ 381	△ 122
親会社株主に帰属する当期純損失(△)	△ 433	△ 365

キャッシュ・フローの状況	前期 2020年4月1日～ 2021年3月31日	当期 2021年4月1日～ 2022年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 579	△ 174
投資活動によるキャッシュ・フロー	705	△ 49
財務活動によるキャッシュ・フロー	51	623
現金及び現金同等物の期末残高	908	1,308

計画を見直す必要があることから、最終年度の計画を取り下げさせていただきました。2022年度は単年のみの計画を作成し、その後2023年度から新たな3年間の新中期経営計画の策定を行う予定です。

また次期は、2023年2月に川辺株式会社創業100周年を迎える年でございます。

コロナ禍で弊社を取り巻く環境は大きく変わりました。お取引先様の環境も変化し、加えてコスト環境や社会全体でのサステナブルへの意識など、その変化に対応すべく、この100周年をリスタートのタイミングと捉え、積極的に新たなことにチャレンジし、新しい川辺株式会社を作る一年に成りえるように努めてまいります。

具体的には、新規販路の開拓強化、EC事業の拡販、直営店舗の黒字化、SDGsの促進です。それらを実行するために欠かすことができないのが、マーケティングの強化です。お客様をはじめとするすべてのステークホルダーへの情報発信に努めてまいります。

更にこれからの100年を見据えた新たなレーベルの立ち上げを計画しています。

以上を重点課題として、当社グループは「顧客第一主義」を経営の根幹とし、一人でも多くのお客様に「喜び」と「満足」を提供させていただくことで、企業価値の更なる向上に向け一層の努力をしてまいります。ご存心でございます。

株主の皆様におかれましては、何卒一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

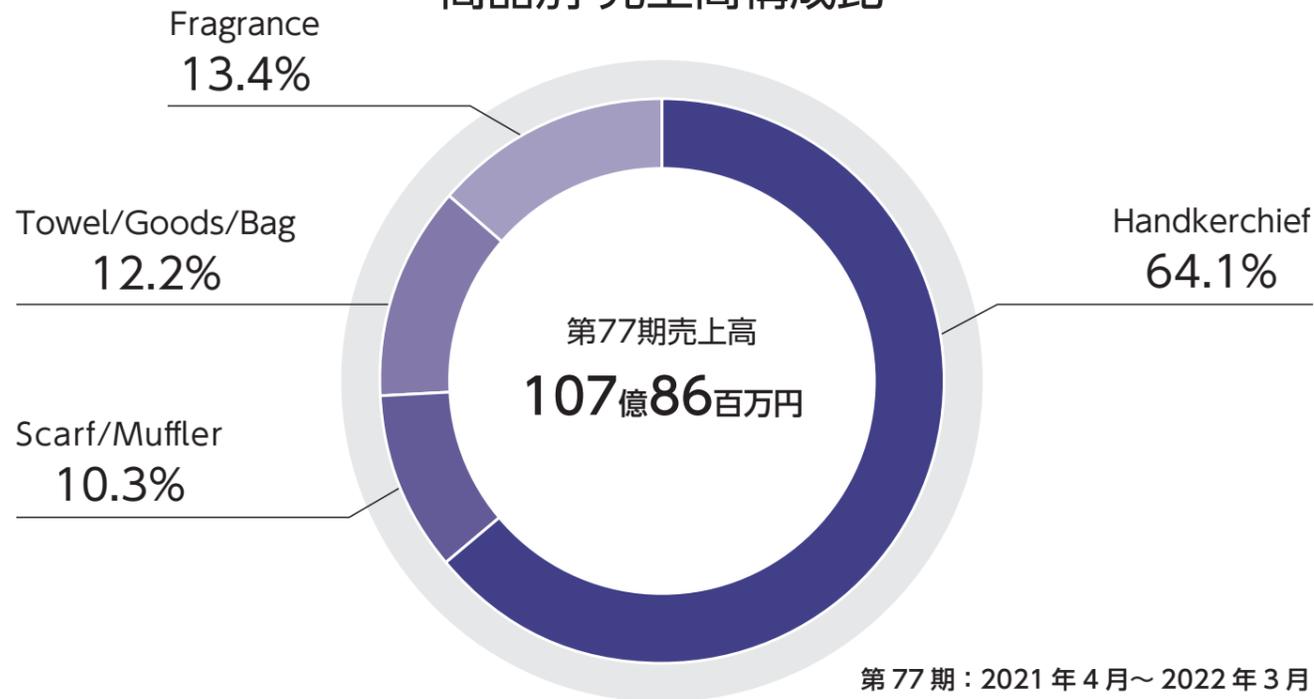


代表取締役社長

岡野将之

(単位：百万円)

商品別 売上高構成比



持続可能な未来のために

川辺株式会社に取り組むSDGs

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

NATURAL BASIC



大切にしたのは、“染めていない”そのままの心地よさ。をコンセプトに“天然素材、無染色のモノづくり”を持続させることで、生産工程において使用する水の量を減らす等、サステナブルにつながるライフスタイルブランドとしてアイテムバリエーションを拡大しております。

felice regalo



SDGsの観点から考える「資源が循環する理想の社会」を実現するため、カシミアに特化したリサイクル事業を開始いたします。カシミアの知識と長年の実績を持つ弊社が店舗とお客様をつなぐ新しい循環型事業をオリジナルブランド felice regaloで取り組んでまいります。

REBORN COTTON



当社の属するタオル美術館グループが推進している「リボーンコットンプロジェクト」に賛同しタオルの製造工程の中で出る廃材と使用済みタオルを回収・裁断・反毛・紡績等の工程を経て、バージンコットンとブレンドした再生綿“リボーンコットン”を弊社商品にも採用することで循環型モデルを確立しております。



Handkerchief
69億13百万円

SDGsを意識したオリジナルブランドの立ち上げや環境に配慮した素材を使用した商品開発により、既存店に加え新規販路拡大に向けて積極的な取り組みに努めてまいりましたが、ギフトニーズの減少がハンカチ需要に影響を及ぼしたことで前年比93.2%の結果となりました。



Scarf/Muffler
11億9百万円

お客様のライフスタイルの変化やSDGsへの意識の高まりにより、より一層、暮らしに寄り添う商品提案、環境にやさしく丁寧なモノづくりを心掛けてまいりました。それにより繁忙期の12月秋冬商戦において順調な売上を構築することができたと前年比119.9%の結果となりました。



Towel/Goods/Bag
13億18百万円

新型コロナウイルス感染症の影響が続き、家で過ごす時間を充実させたいというお客様のマインドからTV通販・EC事業については順調に推移しておりますが、直営店におきましては、断続的な人流抑制による営業自粛、外出自粛が大きく影響し前年比95.3%の結果となりました。



Fragrance
14億45百万円

今期、アクア ディ パルマは銀座エリアで最大級の複合商業施設GINZA SIXに日本初の旗艦店をオープンしました。メゾンフレグランスの売上は前年同様、順調に推移しておりますが、一部ファッションブランドは厳しい状況が続いており前年比92.4%の結果となりました。